

## Journal of Occupational Science 第 23 卷, 第 3 号の書評

近藤知子 (杏林大学)

Journal of Occupational Science (JOS)の 23 巻 3 号は、6 編の研究論文と 2 編のコメント論文、2 編の書評が紹介されている。本号は巻頭言で Hocking 編集長が述べているように、大多数の論文がそれぞれの方法で社会の重要性に触れながら、個人の経験と洞察について探求している。

最初の論文では、Rushford と Thomas (2016) が、作業管理(Occupational stewardship)という語を用い、作業的公正と持続力という視点に、生態学的 (エコロジー) 視点を持ち込もうと試みている。彼らは、自然災害を経験した 8 人の対象者に対し非構造的面接調査を行い、どのように人が相互に、また、環境と交流しながら健康とウェルビーイングを経験し、変化するかを探り、包括的・健康的な社会と環境維持の両者を考えるに上で、作業の視点が役に立つはずだと唱えている、McGrath と McGonagle (2016) もまた、作業的公正と持続可能性のある環境について探求している。彼女らは、アイルランドの伝統作業である「芝刈り」は、実践者や農家の人の立場と環境保護的な立場とで賛否が異なる「厄介な」問題であることに触れながら、7 人の成人への面接から芝刈りについて解釈学的現象学的方法で分析をし、そこには、世代間のつながり、文化的価値の継承、コミュニティのアイデンティティの育成などの意味があることを見出した。

Crawford ら (2016) は、作業的剥奪は、世界各地の亡命 (難民ビザを求める) を求める人々に生じているとし、作業剥奪を社会構造との関係から探ろうと試みている。彼らは、オーストラリアに亡命を求める人々の日常生活経験を構造主義的グラウンデッドセオリーを用いて探求し、この状態が社会構造と個人の性質との相互作用から生じている (Structural Persona Interaction : SPI) という理論を導いた。

Cogan (2016) の論文は、戦争で生じる軽度の外傷性脳障害の症状について、作業の視点から明らかにしようとする文献研究であり、「軽度の頭部外傷」「拡散テンソルイメージ」「爆風」「軍隊」という言葉をキーワードに文献を検索し、最終的に抽出された 17 論文から、受傷軍人に、人間関係、運転、学校生活、睡眠などに問題が生じていることを見出した。彼女は、作業科学研究は、軍人に生じた神経学的変化がどのように日常生活や作業に影響するかを表すことで、画像研究を補完すると結論づけている。

Lynch ら (2016) は、家庭での幼児の遊び発達について社会・文化定期影響という視点を用いながら、12 ヶ月にわたり、アイルランドの都市・農村部の 5 つの家庭の 2 人の新生児と 3 人の 1 歳児の家族と遊びのデータを集め、グラウンデッドセオリーを用いて分析・解釈している。結果として、乳児の遊びは、社会文化的要因によって形成される、多次元現象としてみることを示した。

Crowe ら (2016) の論文の焦点は「親」にある。ここでは、障害をもつ青年の母親 20 名、定型発達の青年の母親 20 名に COPM と半構造的インタビューが行い、作業遂行の目標について探った。当初彼女らは 2 グループのテーマに違いがあると推測していたが、現れた 6 つのテーマのうち 5 つのテーマは共通していた。しかし障害をもつ母親には「青年の発達を支援する/勇気付ける」という独特のテーマがあったことを明らかにしている。

上記の研究論文に加えて掲載されている 2 つのコメントはいずれも作業的公正に関連するものである。Kottorp ら (2016) は、高齢者にとって日常生活テクノロジー (エブリディ・テクノロジー) の使用が困難な状況を作業的公正の視点で見つめ、この領域への作業中心の観点と社会人口学的多様性を対象にした

研究の必要性を喚起している。Lim(2016)は、作業的公正が西洋的視点から記されていることが多い実態について触れ、先進アジア社会での作業的不公正の例をあげながら、アジアでの作業的公正の行動や研究の必要性について勧告している。

これらの論文を執筆者の所属する国別でみるとアイルランド2編、アメリカ3編、カナダ1編、オーストラリア1編、スウェーデン1編であった。つまり掲載論文はすべて欧・豪・米の大学・研究施設に所属する執筆者によるものであるが、論文から導かれる内容は、日本の文脈にもあてはまるものがいくつもある。しかし、同時に、日本には日本の独自の視点や現象があることも感じとれた。最後のコメントで Lim(2016)がふれているように、アジア地域からも作業的公正に関する視点が世界に発信されていく必要がある。作業的公正について、理論的基盤をもちつつ、自国の文化や社会的構造をみつめながら発信していく方法について、参考にできる論文複数ありそうである。

(分析：杏林大学 近藤知子)

## 文献

- Nancy Rushford & Kerry Thomas (2016).Occupational stewardship: Advancing a vision of occupational justice and sustainability.Journal of Occupational Science, 23(3), 295-307.
- Margaret McGrath & Helen McGonagle (2016).Exploring ‘wicked problems’ from an occupational perspective: The case of turf cutting in rural Ireland.Journal of Occupational Science, 23(3), 308-320.
- Emma Crawford, Merrill Turpin, Shoba Nayar, Emily Steel & Jean-Louis Durand (2016).The structural-personal interaction: Occupational deprivation and asylum seekers in Australia.Journal of Occupational Science, 23(3), 321-338.
- Alison M. Cogan (2016).White matter abnormalities in blast mild traumatic brain injury in the military.Journal of Occupational Science, 23(3), 339-351.
- Helen Lynch, Nóirín Hayesb and Susan Ryan (2016).Exploring socio-cultural influences on infant play occupations in Irish home environments.Journal of Occupational Science, 23(3), 352-369.
- Terry K. Crowe, Susanne W. Duvall, Julie A. Gutierrez (2016).Occupational performance goals of mothers of adolescents with disabilities and mothers of adolescents with typical development.Journal of Occupational Science, 23(3), 370-381.
- Anders Kottorp, Louise Nygard, Annicka Hedman, Annika Ohman, Camilla Malinowsky, Lena Rosenberg, Eva Lindqvist and Charlotta Ryd (2016).Access to and use of everyday technology among older people: An occupational justice issue – but for whom?.Journal of Occupational Science, 23(3), 382-388.
- Sok Mui Lim & Tadhg Stapleton (2016).Exploration of occupational justice in developed Asian societies.Journal of Occupational Science, 23(3), 389-396.